

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第27週 2026年6月29日(月)～2026年7月5日(日) 2026年7月9日作成

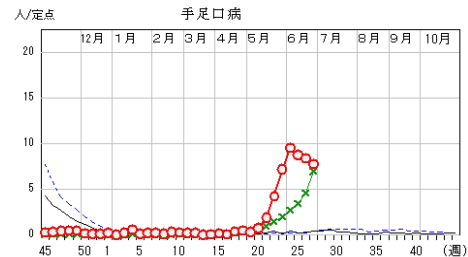
☆定点※報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) 手足口病

第27週の報告数は241人で、前週より19人少なく、定点当たりの報告数は7.77であった。

年齢別では、1歳(123人)、2歳(51人)、1歳未満(37人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所(17.60)、長崎市保健所(11.50)、佐世保市保健所(8.75)、西彼保健所(8.67)であった。

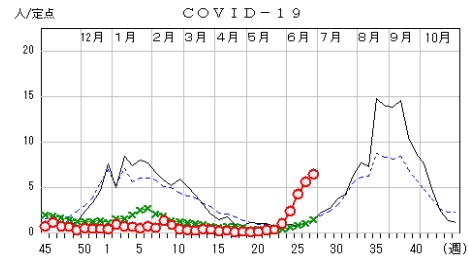


(2) 新型コロナウイルス感染症

第27週の報告数は329人で、前週より42人多く、定点当たりの報告数は6.45であった。

年齢別では、10～14歳(88人)、1歳(37人)、2歳(26人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(17.40)、県北保健所(10.00)、西彼保健所(9.40)であった。

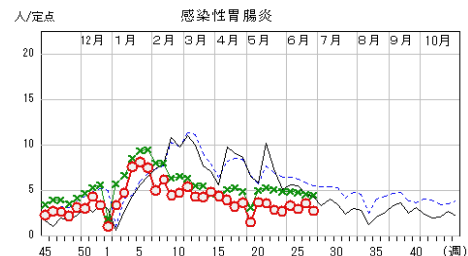


(3) 感染性胃腸炎

第27週の報告数は85人で、前週より27人少なく、定点当たりの報告数は2.74であった。

年齢別では、2歳(11人)、5歳(11人)、10～14歳(11人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所(5.17)、県北保健所(4.50)、佐世保市保健所(4.25)であった。



○ 当年(長崎県) ー 前年(長崎県)
× 当年(全国) ー 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第27週の報告数は241人で、定点当たり報告数は7.77でした。県全体では3週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が継続しています。地区別では、県央地区(17.60)、長崎地区(11.50)、佐世保地区(8.75)、西彼地区(8.67)、県北地区(6.50)は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第27週の報告数は329人で、定点当たり報告数は6.45でした。地区別にみると、県南地区（17.40）、県北地区（10.00）、西彼地区（9.40）は他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第27週の報告数は85人で、定点当たりの報告数は2.74でした。地区別にみると、長崎地区（5.17）、県北地区（4.50）、佐世保地区（4.25）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：日本脳炎注意報が発表されました

本県では日本脳炎の流行予測を目的として、毎年6月から9月の間に日本脳炎ウイルスの主な増幅動物であるブタのウイルスへの感染状況を各回10頭ずつ8回（計80頭）調査しています。6月24日（2回目）に調査した1頭のブタから日本脳炎ウイルスに最近感染したことを示す抗体が検出された結果を受けて、7月3日に県地域保健推進課より注意喚起の情報が出されました。

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症です。人はこのウイルスをもっている蚊に刺されることによって感染します。潜伏期間は5日から15日で、ほとんどの場合は無症状で終わりますが、発症すると数日間の高熱・頭痛・嘔吐・めまいがみられ、重症化すると意識障害・けいれん・昏睡などの症状とともに、死亡に至ることもあります。

夏本番を迎え、蚊の活動が活発になりますので、注意が必要です。予防には日本脳炎ワクチンの接種が最も有効です。また虫除けスプレー等の利用や長袖などを着用する等、媒介する蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されないような対策を取りましょう。

（参考）長崎県地域保健推進課：日本脳炎注意報の発表

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/49682.html>

☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

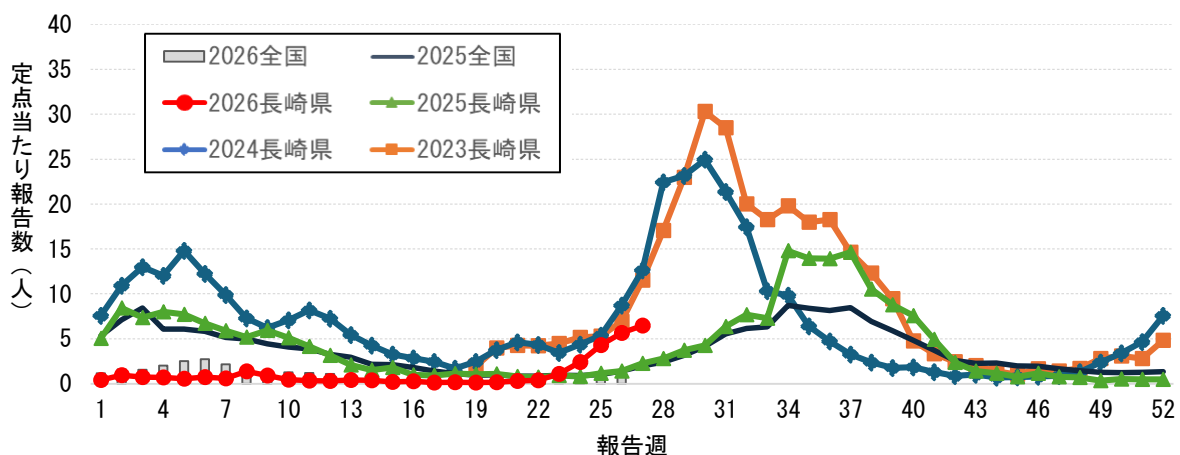
新型コロナウイルス感染症の長崎県における第27週の定点当たり報告数は「6.45」で、8週続けて増加しました。

年代別では、10歳未満（63%）、10代（28%）の順に多く、14歳以下で約9割を占めています。

多くの地区で前週より増加しましたので、今後の動向に注意が必要です。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

詳細は長崎県感染症情報センターホームページ「新型コロナウイルス感染症」に掲載しています。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移

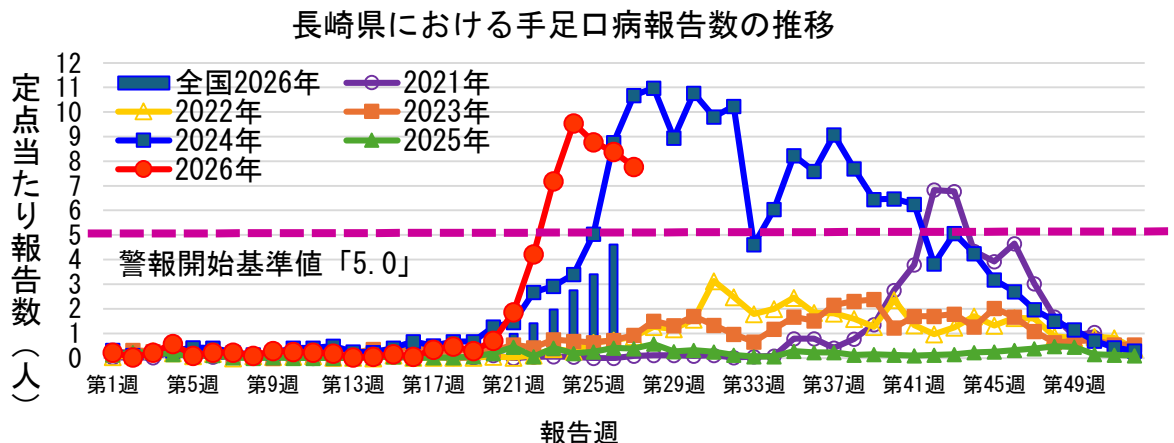


☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

例年6～7月に流行する傾向にあります。長崎県の第27週の定点当たり報告数は「7.77」で3週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が5週間継続しています。県央地区(17.60)、長崎地区(11.50)、佐世保地区(8.75)、西彼地区(8.67)、県北地区(6.50)は、警報レベルの報告数となっています。年齢別では、2歳以下で全体の約9割を占めています。今後も手洗いを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。



☆トピックス：腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。

県内の過去5年の発生状況をみると、7月に最も多く報告があがっています。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。

- 帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- 肉類を調理する際は十分に加熱しましょう
- 生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用后すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう
- 下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう

